

# News Letter

2024  
Spring issue

令和6年5月10日発行

Japan Society for the Sociology of Sport and Physical Education



日本体育社会学会

事務局：〒630-8506

奈良県奈良市北魚屋西町

奈良女子大学生活環境学部 N120 研究室

石坂 友司 研究室内

E-mail: jimukyoku@jssspe.org

## < 目 次 >

|                                          |    |
|------------------------------------------|----|
| 「年報 体育社会学」第5号（2024）の<br>発行について……………      | 1  |
| 「年報 体育社会学」第6号（2025）の<br>発行について……………      | 2  |
| 日本体育社会学会 第2回大会について……………                  | 3  |
| 一般社団法人 日本体育・スポーツ・健康学会<br>第74回大会について…………… | 5  |
| アーカイブ化 ご協力のお願い……………                      | 6  |
| 事務局より……………                               | 6  |
| あとがき……………                                | 11 |

令和6年4月1日に「年報 体育社会学」第5号（2024）が発刊されました。

- 巻頭言 松尾 哲矢  
「日本体育社会学会」創設と「理論—実践—教育の循環システム」の構築にむけて
- 特別寄稿 井上 俊  
社会学の現在と＜公共社会学＞
- 特集論文 学校運動部活動のこれまでとこれから：文化・社会的意義から見えてくるもの  
石坂 友司  
特集のねらい  
有山 篤利  
運動部活動改革の二つのミッション  
下竹 亮志  
運動部活動は何をしてきたのか？地域移行の前提を問い直すために  
山本 宏樹  
運動部活動に人格形成効果はあるか？：  
学習意欲，認知能力，非認知能力，道徳性に関する実証的知見の整理
- 原著論文 中澤 篤史  
日本中学校体育連盟の財務分析：  
中学校運動部活動の社会経済的基盤の解明に向けて  
張 寿山  
スポーツ事業組織の営利・非営利モデルの選択要件についての考察：  
組織の所有理論を適用した場合の合理的なスポーツ事業組織モデルの候補について
- 研究資料 古川 暁也・鄭 泰應  
中国卓球エリート選手における年齢構成の特徴とその背景要因：  
球技5種目の年齢構成の比較を通して
- 書評 清水 諭  
体育の学とはなにか／  
林 洋輔  
佐野 信子  
スポーツとLGBTQ+ シスジェンダー男性優位文化の周縁／  
岡田 桂・山口 理恵子・稲葉 佳奈子

「年報 体育社会学」編集委員会では、現在第 6 号 (2025 年 4 月刊行) の投稿論文の原稿を受け付けております。投稿された論文が 2025 (令和 7) 年 1 月末までに論文審査を終えて採択されれば第 6 号への掲載となりますが、1 月末を過ぎても採択後には翌年の機関誌の刊行 (第 7 号) を待たずに J-stage へ早期公開し、可能な限り投稿者の研究成果を国内外の研究者に広く共有してもらえよう編集体制を整えております。投稿先を検討中という会員の皆様には、是非とも「年報 体育社会学」へのご投稿を検討ください。なお、投稿には締め切りはございません。年間を通じて投稿を受け付けておりますので、何卒よろしくお願いいたします。詳細は、「投稿に関わる諸規程等一覧」をご覧ください。

[https://jssspe.org/wp-content/uploads/annualreport\\_regulations\\_20230625.pdf](https://jssspe.org/wp-content/uploads/annualreport_regulations_20230625.pdf)

「年報 体育社会学」 J-STAGE はこちらからご覧いただけます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/arspes/-char/ja>

## 日本体育社会学会 第2回大会について

### 1. 開催期間

2024年6月22日（土）・23日（日）の二日間

### 2. 開催形式

対面形式

### 3. 主 催

日本体育社会学会 <https://jssspe.org/>

### 4. 大会プログラム

|     | 9:00                | 10:00                | 11:00                  | 12:00             | 13:00                | 14:00                      | 15:00 | 16:00                  | 17:00 | 18:00                |
|-----|---------------------|----------------------|------------------------|-------------------|----------------------|----------------------------|-------|------------------------|-------|----------------------|
| 22日 |                     |                      | 理事会<br>11:00-12:00     | 受付<br>12:00-13:00 | 一般発表①<br>13:00-14:10 | 一般発表②<br>14:15-15:25       |       | 実行委員会企画<br>15:30-17:30 |       | 情報交換会<br>18:00-20:00 |
| 23日 | 一般発表③<br>9:00-10:10 | 一般発表④<br>10:10-11:20 | 一般発表⑤<br>11:20-12:30   | 休憩<br>12:30-13:30 | 総会<br>13:30-14:30    | 研究委員会シンポジウム<br>14:30-17:00 |       | 閉会式<br>17:00-17:30     |       |                      |
|     |                     |                      | P.A.体験会<br>11:00-13:00 |                   |                      |                            |       |                        |       |                      |

### 5. 開催場所

関西大学堺キャンパス

〒590-8515

堺市堺区香ヶ丘町1丁目11番1号

<https://www.kansai-u.ac.jp/ja/about/campus/>

（南海電鉄高野線「浅香山」駅下車、すぐ）

※総会是对面で開催します

### 6. スケジュール

5月13日を締め切りとしておりました一般発表の申込ですが、申込状況を鑑みて締め切りを延長することといたしました。

新しい発表の締め切りは、5月31日（金）17:00までで、抄録の提出〆切と同一といたします。

この機会に、ぜひとも研究成果の発表と情報交換・共有をお願いします。

### 7. 大会参加および発表申込み

(1) 大会参加、及び発表を希望される方は、下記、日本体育社会学会（大会）ホームページの専用フォームからお申込みください。

参加申込フォーム：<https://jssspe.org/taikai/taikai-form>（〆切：5月31日（金）17:00まで）

(2) 一般発表は、「一般口頭発表」のみを実施します。

(3) 「一般口頭発表」発表資格は、発表代表者は日本体育・スポーツ・健康学会の体育社会学専門領域の会員に限り、また、第2発表者以降には、別途、参加費を申し受けることとします。

(4) 発表を希望する方は、発表抄録を「体育社会学専門領域 発表抄録集執筆要項」を参照し、作成してください。作成された抄録原稿のWordファイルを上記のフォームからご提出ください。なお、発表抄録の著作権は本学会に帰属します。

(5) 本会では、体育社会学分野における学生の研究を奨励することを目的として、教育機関で専任の職を有する

者を除いた大学院生および研究生に対して、「学生研究奨励賞」を授与します。審査を希望する方は「体育社会学専門領域 発表抄録集執筆要項」を参照の上、所定の発表抄録を作成してください。また、参加申込フォームの「審査を希望する」欄にチェックを入れてください。

## 8. 大会参加費と振込先

参加費納入期日、振込先については後日ホームページ、メーリングリストでお知らせします。

| 種 別             | 早期割引あり  | 通常（早期割引なし） |
|-----------------|---------|------------|
| 正会員参加費          | 3,000 円 | 4,000 円    |
| 正会員（学生・院生）参加費   |         | 1,000 円    |
| 非会員（一般）参加費      |         | 4,000 円    |
| 非会員（学生・院生）参加費   |         | 1,000 円    |
| 情報交換会費（正会員）     | 5,000 円 | 6,000 円    |
| 情報交換会費（学生・院生）   | 4,000 円 | 4,500 円    |
| 情報交換会費（非会員（一般）） |         | 6,000 円    |

## 9. プログラムおよび発表抄録集について

主なプログラムとその詳細については大会ホームページで随時更新しておりますので、そちらでご確認ください。また、発表抄録集は完成次第、ホームページ上でパスワード付きの PDF として公開いたします。参加者の皆様には、後ほど e-mail にてパスワードを配信します。今大会でも、印刷物による配布は致しませんので、予めご了承ください。

## 10. 実行委員会

実行委員長： 彦次 佳（関西大学人間健康学部）  
 副実行委員長： 石澤 伸弘（北海道教育大学札幌校）  
 副実行委員長： 依田 充代（日本体育大学）  
 副実行委員長： 工藤 康宏（武庫川女子大学健康・スポーツ科学部）  
 副実行委員長： 常行 泰子（神戸市外国語大学）  
 委 員： 西山 哲郎（関西大学人間健康学部）  
 委 員： 谷所 慶（関西大学人間健康学部）  
 委 員： 古屋 孝生（関西大学人間健康学部）  
 委 員： 竹内 秀一（関西大学人間健康学部）  
 委 員： 畔柳 俊太郎（関西大学人間健康学部）  
 委 員： 三浦 敬太（関西大学人間健康学部）  
 委 員： 丸谷 賢弘（関西大学人間健康学部）

|                                          |
|------------------------------------------|
| <b>一般社団法人 日本体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会について</b> |
|------------------------------------------|

標記学会大会が下記の内容で開催されます。詳しくは以下の HP をご覧ください。

<https://pub.conf.it.atlas.jp/event/jspehss74>

- テーマ： 地域の創生と共生をはぐくむ体育・スポーツ・健康科学
- 会期：2024 年 8 月 29 日（木）～2024 年 8 月 31 日（土）
- 会場： 福岡大学  
〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目 19-1
- 開催形式：対面式
- 大会スケジュール：
  - ◇大会 1 日目（8 月 29 日）  
オープニングセレモニー／総会／専門領域別企画／  
本部企画シンポジウム／情報交換会
  - ◇大会 2 日目（8 月 30 日）  
テーマ別研究発表並びにテーマ別シンポジウム／本部企画シンポジウム
  - ◇大会 3 日目（8 月 31 日）  
専門領域理事会／専門領域別研究発表／専門領域総会

現在、日本体育・スポーツ・健康学会体育社会学専門領域の発表論文集・抄録集をアーカイブ化しています。第15号～現在までの論文集・抄録集については体育社会学専門領域ホームページ上で公開いたしました。第14号までのアーカイブ化については事務局で保管している現物がないことから作業を中断しております。もし、アーカイブ化にご協力いただける方がおられましたら、下記アドレスにご連絡いただけないでしょうか。

事務局メールアドレス：[jimukyoku@jssspe.org](mailto:jimukyoku@jssspe.org)

なおPDFにするにあたり、背表紙を約1cm程度切り落とす必要がありますので、その点をご了承いただける方がおられれば幸いです。何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

## 事務局より

第2回学会大会は関西大学堺キャンパスにおいて、2024年6月22日（土）、23日（日）に開催されます。また、日本体育・スポーツ・健康学会大会（福岡大学）は8月29日（木）～31日（土）の日程で開催され、8月29日（木）にキーノートレクチャー、ワークショップを行い、8月31日（土）に一般発表が行われます。詳細はホームページ、会報などでお知らせします。

会員への連絡はホームページと会報、メールで行います。日本体育・スポーツ・健康学会大会の名簿に登録されたメールアドレスにご案内していますが、メールが届かない方が数名おられますので更新をお願いいたします。登録変更は本会の下記ページにて手続きを行ってください。

<https://member.taiiku-gakkai.or.jp/member/>

また、メールが届いていない方がおられましたら、事務局までお知らせください。事務局のメールアドレスは以下の通りです。

事務局メールアドレス：[jimukyoku@jssspe.org](mailto:jimukyoku@jssspe.org)

## ○理事会議事録

### 2023年度 日本体育社会学会 第5回理事会 議事録

日時：2024年1月22日（月）～1月26日（金）

場所：メール審議

議事録：石坂事務局長

#### <議題>

##### 1. 「年報 体育社会学」販売所の選定について

第5号から販売が予定されている「年報 体育社会学」について、販売所の候補となる3社が高峰理事長から説明動画を用いて提案された。説明では各社の概要、送料、代行手数料、保管料等の条件が比較提示され、審議が行われた。審議の結果、①利益率、②販売方法、③保管料の観点から「杏林書院」を選定することが決定された。なお、販売を有効に進めるため、発行日を4月以降にずらすことが検討されていることが説明された。

以上

### 2023年度 日本体育社会学会 第6回理事会 議事録

日時：2024年2月23日（金）～2月26日（月）

場所：メール審議

議事録：石坂事務局長

#### <議題>

##### 1. 「年報 体育社会学」の販売価格について

編集委員会の議を経て、高峰理事長より「年報 体育社会学」の販売価格を2,000円（税込み）とすることが提

案された。販売価格の設定に際しては、近隣学会の学会誌を参考にすることが説明され、異議なく承認された。

## 2. 「年報 体育社会学」の刊行日の変更について

編集委員会の議を経て、高峰理事長より「年報 体育社会学」の刊行日を現在の3月31日から4月1日に変更することが提案された。販売の中心となる図書館等においては発行日が年度明けのほうが処理しやすい点、第5号の刊行は2023年度事業計画で予定されており、発行日が年度を超えることを事業報告で行う必要があることについて説明され、異議なく承認された。

## 3. 「年報 体育社会学」のJ-Stageへの掲載について

編集委員会の議を経て、高峰理事長より「年報 体育社会学」のJ-Stageへの掲載について、特集論文は一年後に掲載し、巻頭言、書評などは掲載しない方針が提案された。書評は公開した方が良いとの意見が出たため、継続審議とされた。

以上

## 2023年度 日本体育社会学会 第7回理事会 議事録

日時：2024年3月13日（水）～3月15日（金）

場所：メール審議

議事録：石坂事務局長

「年報 体育社会学」第5号の発行に関して、以下の点が高峰理事長より提案され、審議の結果、異議などなく承認された。

### <議題>

1. 発行主体を「体育社会学専門領域」から「日本体育社会学会」に変更する。これにともない、英文表記を「Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences Since 1962」から、「Japan Society for the Sociology of Sport and Physical Education Since 2023」に変更する。
2. 表紙の下部に記載されていた「pesociology.jp」（専門領域ドメイン名）を学会名称「JSSSPE」に変更する。
3. 英語誌名を「Annual Review for the Sociology of Physical Education and Sport」から学会名に合わせて「Annual Review for the Sociology of Sport and Physical Education」と変更する。
4. 国会図書館図書センターから発行主体、英文表記が変更になっても、組織を引き継ぐ学会からの発行になるため、ISSNに変更はないことが確認された。

以上

## 2023年度 日本体育社会学会 第8回理事会 議事録

日時：2024年3月26日（火）18:00～20:00

場所：zoom オンライン

出席者：松尾哲矢（会長）、高峰修（理事長）

秋吉遼子、稲葉慎太郎、大沼義彦、岡安功、笹生心太、清水諭、白石翔、高尾将幸、  
高橋豪仁、千葉直樹、中澤篤史、藤井雅人、前田博子、松田恵示（以上理事、敬称略、五十音順）  
有山篤利、宮本幸子（以上監事、敬称略、五十音順）  
石坂友司（事務局長）、石澤伸弘（事務局次長）、水上博司（事務局次長）、  
工藤康宏（事務局会計担当）（敬称略）

欠席者：浅沼道成、伊藤克広、甲斐健人、北村尚浩、神野賢治、長ヶ原誠、彦次佳、  
依田充代（以上理事、敬称略、五十音順）

司会：高峰理事長

議事録：石坂事務局長

議事に先立ち、松尾会長より挨拶がなされた。



#### <報告事項>

##### 1. 2023 年度活動報告について

2023 年 9 月以降の各委員会活動報告について高峰理事長から報告がなされた。事務局から体育社会学専門領域の会員数は 353 人（名誉会員 22 人）（2024 年 3 月 26 日現在）となることが報告された。

##### 2. 学会誌の改編について（別紙 1）

新学会設立に伴い、編集委員会を中心に行われた『年報 体育社会学』の誌面改編について（発行主体の変更、英語誌名の変更、学会誌としての誌面の充実、販売、契約締結（審議事項 V.）、刊行日の変更、経費見直し）、別紙 1 をもとに説明がなされた。

##### 3. テキスト出版プロジェクトについて（別紙 2）

テキスト出版プロジェクトについて、松田委員長より執筆者の確定、および 2025 年 1 月の刊行に向けたスケジュールが報告された。

##### 4. 体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会について（別紙 3）

体育・スポーツ・健康学会第 74 回大会の開催スケジュールについて（8/29 キーノート、ワークショップ、8/31 理事会、総会、一般発表）、別紙 3 をもとに高峰理事長より報告がなされた。

##### 5. 第 2 回学会大会の開催について（別紙 4）

第 2 回学会大会の開催について、石澤事務局長より大会要項（第 1 報）（別紙 4）をもとに、一般発表の申込スケジュールなどが報告された。シンポジウムは研究委員会と相談しながら、対面／オンラインの方法を検討していくこと、学部生ポスター発表は実施しないこと、抄録の提出は Word に加え PDF でも行うこと、学生研究奨励賞の審査はこの大会で行うことなどが報告された。また、大会実行委員会は関西大学の彦次理事を委員長とし、関西の会員に協力を求めることが報告され、協力依頼がなされた。

##### 6. 若手研究者委員会（（一社）日本スポーツ・体育・健康学会）活動報告

審議事項 9. と関連することから報告は後ほど行うこととされた。

##### 7. その他

特になし。

#### <審議事項>

##### 1. 2023 年度決算報告（暫定）、及び第 1 回大会監査報告について（別紙 5）

###### （1）第 1 回大会監査報告について

工藤事務局会計担当より、別紙 5 により 2023 年 6 月に行われた第 1 回大会の会計報告がなされた。20 万円の補助金に対して、38 万 912 円の返戻金が発生していることが説明された。続けて有山監事、宮本監事より監査報告がなされ、会計は適正に処理されていることが報告された。大会実行委員長の松尾会長より、会計報告が遅れたことについての説明がなされた。工藤事務局会計担当より、その原因として事務局移転時期と重なったこと、口座の開設が間に合わず事務局口座を使ったことで会計処理に時間がかかったこと、会計監査に際して顛末書が作成されたこと、次回大会に反省点を引き継いでいくことが報告された。

前田理事より懇親会の名称は「情報交換会」となっていたのではないかという質問があり、石坂事務局長より、（一社）日本スポーツ・体育・健康学会ではその名称を用いているが、今大会では懇親会という名称を用いていたと説明がなされた。

###### （2）2023 年度決算報告（暫定）について

工藤事務局会計担当より、別紙 5 により 2023 年度の暫定的な決算報告がなされた。第 1 回大会に事務局口座を使用したことで、収入「その他」項目の額が確定できていないこと、そのため暫定的に大会収支を含んだ数字

になっていることが説明された。年報関係の項目が請求書とズレているため、「年報体育社会学関連」とまとめて表記すること、業務委託費、アルバイト費の執行がなかったこと、収支は44,856円の黒字見込みとなっていることなどが説明された。また、2023年度予算は3月31日をもって締め日となるため、6月の理事会で改めて決算報告、会計監査報告を行うことが石坂事務局長から説明された。

以上、第1回大会会計監査報告、2023年度決算報告（暫定）について異議などなく承認された。

## 2. 2024年度活動計画について

理事会資料をもとに2024年度活動計画について、研究委員会（千葉委員長）、編集委員会（藤井委員長）、学生研究奨励賞選考委員会（高峰理事長）、広報委員会（岡安理事）、学会大会委員会（石澤事務局次長）、「テキスト出版」プロジェクト編集委員会（松田委員長）、理事会（高峰理事長）、事務局（石坂事務局長）からそれぞれ報告がなされた。2024年度活動計画について異議などなく承認された。また、審議事項6.にある第3回大会開催校について、学会大会委員会より、東北大学（甲斐理事）を主幹校として開催したい旨の提案がなされ、異議などなく承認した。

## 3. 2024年度予算案について（別紙6）

工藤事務局会計担当より、別紙6により2024年度予算案について説明がなされた。2023年度との変更点では、収入に学会誌販売（30冊を想定）を計上したこと、支出では年報体育社会学関連費（第5号）が減額見込みで729,904円を計上したこと、ホームページ費が通常予算に戻ることに、活動報告をもとに謝金を15万円に増額したこと、委託費についても計上したことなどが説明された。

松尾会長より理事選挙の費用を計上しなくて良いかとの質問があり、石坂事務局長から選挙は3月実施を予定していて、経費支払いは4月以降（2025年度）になることを見込んで計上していないこと、時期が早まる場合は補正予算で対応したいとの説明がなされた。このことに関連して、水上事務局次長、石澤事務局次長より（一社）日本スポーツ・体育・健康学会（代議員選挙）と専門領域の理事選挙制度の違いについて補足説明がなされた。松尾会長よりテキスト出版の印税収入などが検討できていないことの指摘がなされた。石坂事務局長より、大修館書店との契約では初版印税は執筆者への執筆料に充てることにしているが、重版が行われたときの取り決めはなされていないので、今後検討する必要がある旨回答された。

2024年度予算案について異議などなく承認された。

## 4. 諸規程の改訂について

関連する審議事項7. 学会賞の選考スケジュールが先に審議された。水上事務局次長（前選考委員）より、今後の学会賞選考に際して行われる、選考委員候補者推薦委員会の結成と選考委員の選定プロセスについて説明がなされた。続けて「日本体育社会学会賞 選考規程」、「日本体育社会学会賞の推薦および選考に係わる申し合わせ」の改訂案が石坂事務局長から提案され、審議事項7. 学会賞の選考スケジュールとともに特に異議などなく承認された。

## 5. 学会誌発行にかかる契約の締結について（別紙7）

学会誌発行にかかる契約の締結について、杏林書院、一ツ橋印刷と新たに契約を取り交わすことについて石坂事務局長より説明がなされ、契約案は異議などなく承認された。

## 6. 第3回大会開催校について

審議事項2. で合わせて審議されたように、第3回大会は東北大学で開催されることが承認された。

## 7. 学会賞について

審議事項4. で合わせて審議されたように、学会賞の選考プロセスが承認された。

## 8. 会員制度の新設について（別紙8）

現在日本体育・スポーツ・健康学会の会員に限定されている会員とは別に、日本体育社会学会に単独で入会できる会員制度（独自会員）の新設について高峰理事長から別紙8をもとに説明がなされた。提案では、独自会員

として正会員、学生会員を新設すること（及び会費設定）、総会での議決権や選挙権・被選挙権の考え方について、他学会の動向が示され、種々意見交換がなされた。

石坂事務局長より、独自会員の名簿管理を（一社）日本スポーツ・体育・健康学会とは別に行う必要が出てくること、また、現在は（一社）日本スポーツ・体育・健康学会が行っている会員の承認プロセスを検討しなければならないとする補足説明がなされた。松尾会長より、現在の会員制度では特に学生の会員にとって経済的負担が大きく、若手研究者の入会に支障があることが指摘された。大沼理事より、学会誌への投稿や大会での発表資格などメンバーシップの整理が必要になるのではないかと意見が出された。

新会員制度の創設については、2024 年度 6 月の理事会で諸規程の整備を含め引き続き検討を進めていくことが理事長から提案され、承認された。

## 9. その他

### ①国際交流に向けたワーキンググループの発足について

本学会は専門領域の活動から独立学会化したため、現時点で国際交流を行うための委員会設置がない。この点について、委員会創設や活動のあり方を検討するワーキンググループを創設すること、チーフを石澤事務局長に依頼することが高峰理事長から提案され、異議などなく承認された。

### ②若手会員獲得に向けた施策について

報告事項 6. にあげられた（一社）日本スポーツ・体育・健康学会の若手研究者委員会（片桐夏海委員）の活動報告が高峰理事長からなされた。

続けて松尾委員長から「日本体育社会学界の未来からみた 2024 年度の課題」（当日資料）をもとに、学生会員、若手会員の増員施策についての検討提案がなされ、種々意見交換を行った。高尾理事からは学生が発表しやすい場、研究促進がはかれる場を作っていくことの重要性について、笹生理事からは近接領域の取り組み説明に加え、体育の現場に還元できる実践知を重視することで、体育の若手教員や教職大学院の院生などに入会、研究報告をしてもらうような環境整備が必要ではないかとの意見が出された。

藤井編集委員長からは学会誌の質を高めていくためのガイドラインを定めていくことを検討していることが報告された。このことに関連して、前田理事（編集副委員長）からは体育学研究と年報との違いが明確ではなく、査読のレベルについての共通認識ができていないのではないかと指摘に加え、現場につながる実践知について投稿できるような雑誌のジャンルを創設することも考えられるのではないかと意見が出された。中澤理事からも査読のクオリティ・コントロールは重要だが、体育学研究と差異化する意味でも、教育的査読を行っているという年報の趣旨や指針を編集委員会で議論して作成してもらいたいとの要請がなされた。

清水理事からは体育（スポーツ）社会学という領域に学生を獲得することが難しくなっている状況を踏まえて、どのような学問なのかについての情報発信と（テキスト出版はその一つになる）、学問領域としての戦略をもち（現場の実践だけではなく政策的を提言できる側面もある）、会員で議論していくことが重要であるという意見が出された。

高峰理事長からは会報での情報発信や大会での意見交換をする時間を設けるなどの方法を含めて、今後検討を進めていくことが提案され、異議などなく承認された。

### ③研究委員会の負担について

松尾会長から研究委員会の負担が増えていることについて、研究委員会から次回理事会などで負担軽減策などを整理、提案いただきたいとの提案がなされた。

最後に、宮本監事より査読の指針については作成いただきたいこと、外部に向けて体育社会学とスポーツ社会学との違いが分かるような発信が必要であるという提案がなされ、閉会の挨拶とされた。

次回定例理事会：2024 年 6 月 22 日（土）11 時から、第 2 回大会に合わせて開催予定。

以上

## あとがき

今年度より広報委員として活動している、広島経済大学の岡安功と申します。昨年6月からの新体制においては、3回目のニュースレターをお届けいたします。

今号は、「年報 体育社会学 第5号(2024)」の発刊、日本体育社会学会第2回大会、および日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会などについてです。日本体育社会学会第2回大会は、6月22日(土)・23日(日)の2日間、関西大学堺キャンパスにおいて開催されます。また日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会は、8月29日(木)～31日(土)の3日間、福岡大学において開催されます。専門領域のキーノートレクチャーとワークショップが、29日に開催されます。

さて、2024年2月、広島市にはサッカー専用スタジアムがオープンし、J1に所属するサンフレッチェ広島のホームスタジアムとして利用されています。街なかスタジアムとして、アクセスがよく、地域経済の活性化が期待されています。歴史をたどると、平和記念公園建設を構想した丹下健三先生の図面には、サッカー場がありました。また平和については、「人々が実践的に創り出してゆくもの(丹下ら, 1949)」と述べています。平和であるからこそ、スポーツを楽しむこともできる。近年は、世界各地で紛争等が起こっています。スタジアムのオープンは、あらためて、スポーツを通じて平和を考える機会にもなるのではないかと思います。

今年の春、気温は全国的に高い予報が出ております。各会員みなさまにおかれましては、くれぐれもご自愛ください。そして、大阪や福岡でお会いできることを楽しみにしております。

岡安 功 (広報委員会)